

プログラム PROGRAM

●13:00～受付

●13:30 開会挨拶 高知銀行

●建築・土木・ITに関する研究シーズ（発表後質疑5分）

時 間	所属・職名	氏 名	発表題目	概 要	参加してほしい業種
13:40 ～ 14:00	ソーシャルデザイン工学科 准教授	イワサキ ヨウヘイ 岩崎 洋平	XR (EXtended Reality) 技 術 と 建築・土木に関する応用事例	XR (VR:仮想現実・MR:複合現実・AR:拡張現実) 技術の基礎概念や構成技術および関連技術をわかりやすく解説し、ヘッドマウントディスプレイやセンサなどを含む要素技術を紹介します。さらに、LiDARを用いた点群取得と3Dモデル化、その研究事例・応用事例を取り上げ、土木・建築分野におけるXR活用についてお話しします。	XR技術に興味のある土木・建設分野全般
14:05 ～ 14:25	ソーシャルデザイン工学科 准教授	ヒガシ カズユキ 東 和之	代償創出された人工海浜における底生生物相の変遷とその決定要因	徳島市沖洲にある人工海浜は、埋め立てられた既存海浜の代償を目的に造成されましたが、人工海浜の底生生物相は既存海浜のそれと比較して大きく異なっていました。特に表在生物の生息密度が低く、その原因としてニホンスナモグリの生物攪拌が疑われました。ニホンスナモグリの生物攪拌は表在生物の生息に負の影響を与えますが、特定の種にとっては正の影響を与えることが示されました。今回は、本海浜で行われた順応的管理の例も含めてお話しします。	建設コンサルタント、建設会社、官公庁など
14:30 ～ 14:50	ソーシャルデザイン工学科 教授	ヨシオカ サトシ 吉岡 聡司	建築・都市においていかに豊かなコモン(共用空間)を創出するか／多様なステークホルダーとの連携	建築や都市の計画においては、20世紀的な単一の機能の重視から、コモン(共用空間)や人の居場所を重視する計画へと考え方が移り変わってきました。また、異なる計画主体が連携することで、それぞれが単独では出来ない計画が実現しうること、よく議論されています。大学のキャンパス計画を15年間担い、様々のセクターと協働してきた計画実務と研究の成果をいくつかお示しし、各種施設や屋外空間の計画に資する知見を紹介しします。	建築計画・都市計画に関わる行政、企業経営者(商業・金融)、設計事務所、建設業
14:55 ～ 15:15	ソーシャルデザイン工学科 教授	コンドウ タクヤ 近藤 拓也	未知なる材料を使用した建設構造物の検討-SDGsのさらなる推進に向けて-	建設材料として多く使用されているコンクリートですが、セメント製造時のCO2発生や、骨材枯渇化のため、代替材料の検討が必要となります。また維持管理の重要性も認識されており、建設材料のさらなる高機能化が重要となります。本研究室では、建設分野のさらなるSDGs推進に向けて、未知なる材料を使用した建設構造物の建設に向けて研究を行っています。今回の発表では、これら成果の一端をご紹介します。	建設分野全般

●15:20 閉会挨拶 高知工業高等専門学校

●終了後 高知高専教員による個別技術相談

○併 設 一般社団法人 高知県発明協会 知財相談窓口 14:00～15:00

高知高専・高知銀行連携 第18回シーズ発表会 参加申込はコチラから

締切日 令和7年11月11日(火)



※駐車場に限りがございますので、できる限り公共交通機関をご利用ください。